校長室から　ひがしなら通心
（Ｈ３０年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．４３
平成３０年１２月１８日（火）発行

これって誰がやるの？

～ニューモラルＮｏ.５９２より～

教室に落ちているゴミ、道ばたに落ちているゴミに見て見ぬ振り。こんなふうに“自分がやらなくてもいいだろう”と思って見過ごしてしまっている物事が、みなさんの日常生活の中にもないでしょうか。

たとえばこれが自分の部屋なら、自分でゴミを片付けることに疑問は持たないでしょう。ところが、他の人と共有して使う場所になると“自分が散らかしたわけではないし･･･”“自分がやらなくても、ほかの誰かがやるだろう”といった気持ちがわき起こるのです。もしかしたら、自分の家の中でも“お母さんが片付けてくれるから”などと思って、見過ごしていることがあるかもしれません。

こうしたことは、ゴミ問題に限らず、そして大人になってからも、さまざまな場面で直面することがあります。たとえば職場の中でも、特に役割分担が決められていない「小さな仕事」はあるものです。残り少なくなった備品の補充。共有の資料棚の整理整頓。観葉植物の水やり。いっぱいになったゴミ箱を、誰が片付けるのか･･･。あるいは、通常業務で手いっぱいの時に急な仕事が降りかかってきて“どうして自分が･･･”と思うことなどもあります。「気づいた人がやればいい」「手の空いた人がやってくれるだろう」「そもそも、散らかす人がいけない」といった考え方もあるでしょうが、一人ひとりがそう思って手をこまねくばかりでは、物事は動きませんし、「責任の押し付け合い」のようになっても、お互いに心穏やかではないでしょう。それは町内会やＰＴＡなど、有志の力で成り立っている活動についてもいえることではないでしょうか。

～ 自分が「誰か」になる ～

私たちの日常生活は、家庭や学校、職場、地域社会など、多くの人たちとの関わりの中で成り立っています。そこには、もともと「誰の役割」というように明確には決まっていないこともあれば、「誰がやってもいいことだけど、誰かが率先してやらなければ物事が進まない」という場合もあります。

そうした役割に直面して“どうして自分がこんな面倒を･･･”という思いがわき起こったときは、私たちと社会との関係を、あらためて見つめ直してみましょう。それは「お世話になったり、お世話をしたりする関係」ともいえますし、「迷惑をかけたり、かけられたりすることもある関係」ともいうことができます。

私たちは日々、さまざまな支えを受けて生活しています。また、もしかしたら自分自身も、知らず知らずのうちに誰かに迷惑をかけていることもあるかもしれない――そんなふうに考えてみると、心穏やかに「誰の役割でもない物事」と向き合うことができる面もあるのではないでしょうか。誰がやってもいいことなら、自分が一歩を踏み出して、その誰かになってみよう――そんな心がけも必要なのかもしれません。

～「責任」を感じる範囲をひろげていく～

私たちの心は、ともすると「自分さえよければいい」というように、自己中心的にはたらきやすいようです。また「やったほうがよいこと」「誰かがやるべきこと」と分かってはいても、自分だけが行うのは損だとか、人目を気にするあまり「恥ずかしい」「照れくさい」といった心にとらわれて、敬遠してしまうこともあるかもしれません。

しかし、この社会は「誰か一人のもの」ではありません。それは、自分も含めた「ここで暮らしているみんな」のものであるということです。そう考えたなら、自分の部屋に落ちているゴミを片付けるのと同じように、教室や道ばたに落ちているゴミも拾うことができるのではないでしょうか。落ちているゴミと同じように、発生した「やるべきこと」が、もし誰かの落ち度から生まれたものだったとしたら、相手を責めるのではなく、それをそっと補ってみましょう。不満の心ではなく、また見返りを求めずにそれを行ったときには、自分が思っている以上に温かい気持ちが心の中に生まれてくることでしょう。そして「誰かがやるべきこと」にいち早く気づき、率先してそれを行う習慣を身につけることは、自分自身の人間的な成長にもつながるはずです。

何より、こうして一人ひとりが「自分の責任として、きちんとしておこう」と感じる範囲を少しずつ広げていったなら、社会全体がよりよいものになっていくのではないでしょうか。

～「お互いさま」「おかげさま」の思いで ～

よりよい社会があってこそ、私たちは安心して暮らすことができます。そして私たちは、社会に支えられていると同時に、社会を支えている存在でもあります。一人ひとりが「誰かを支える側に立つ」という意識を持つことによって、はじめて社会がうまく機能するのです。社会を支えていく手段としては、まず一人ひとりが自分の役割や仕事にしっかりと取り組むことがあげられます。それとともに、よりよい社会を築いていくためには「誰の役割でもない仕事」にも目を向けて、積極的にそれらを担っていく必要があるのではないでしょうか。そんな「誰の役割でもない物事」に目を向けることは、日頃からそうした役割を買って出て、私たちの日常を支えてくれている「誰かの力」に気づくことにもつながります。私たちは、自分自身の日常を支えてくれている「誰かの力」に感謝すると共に「お互いさま」「おかげさま」の思いで、進んでよりよい社会づくりのために尽くしていきたいものです。

年末の大掃除の時期を迎えます。
身近な場所の埃（ほこり）と共に、心の中の塵（ちり）も払って、すがすがしい気持ちで新しい年を迎えてみませんか。